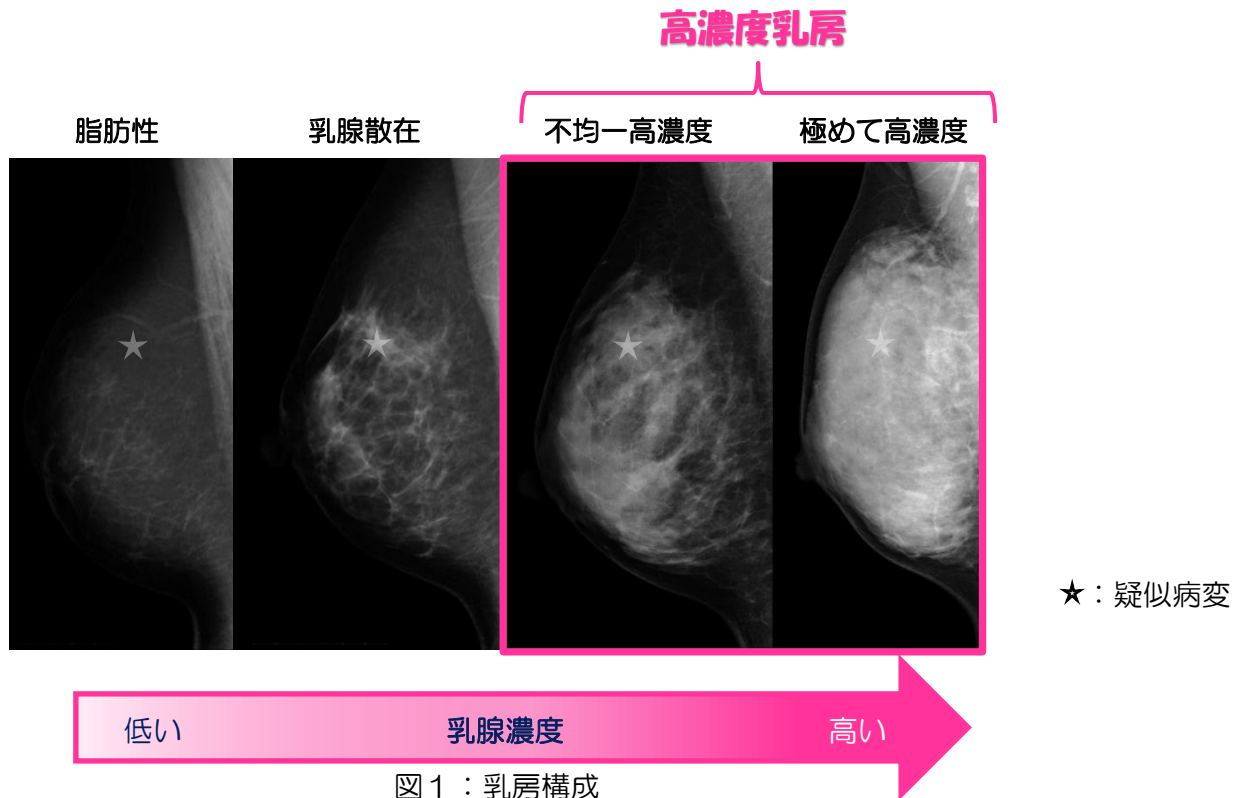


高濃度乳房とは・・・？

乳房の中の乳腺が多く、マンモグラフィで乳房が白く写るタイプの乳房のことです。



乳房は主に乳腺と脂肪からできていて、この割合は個人によって異なります。

マンモグラフィでは、乳腺は白く脂肪は黒く写ります。マンモグラフィ上の白黒の程度を「乳腺濃度」と言い、白く濃く写る（乳腺が多い）ものを濃度が高い、黒く写るものを濃度が低いと表現します。

また、マンモグラフィにおける乳腺組織と脂肪組織の割合と分布を「乳房構成」として評価し、乳腺が多く白く写るほうから【極めて高濃度】【不均一高濃度】【乳腺散在】【脂肪性】の4つに分類されます(図1)。このうち、乳腺の豊富な【極めて高濃度】【不均一高濃度】の2つをあわせて『高濃度乳房』と呼びます。

乳腺組織は年齢とともに減少するため、『高濃度乳房』は高齢者に比べて若い人に相対的に多いと言われています。しかし近年、出産率の低下やホルモン補充療法を受けている方が増加し、高齢でも『高濃度乳房』である方が多く見られるようになってきました。

なお、乳房の大きさそのものと乳房構成は関係ありません。

高濃度乳房は病変を発見しにくい

マンモグラフィでは乳腺組織は白く写りますが、しこりなどの病変も同じように白く写ります。

そのため、『高濃度乳房』の方は【乳腺散在】【脂肪性】の人に比べて、しこりなどの病変が乳腺組織に隠れてしまい、マンモグラフィでは見つけにくくなる傾向があります(図1参照、図中の★ように病変は写ります)。

高濃度乳房は病気・・・？

『高濃度乳房』は、乳房構成を表す言葉であり、**病気ではありません**。そのため検診で『高濃度乳房』と言われても、要精密検査にはなりません。また**保険診療の対象ではなく**、乳房超音波検査などの追加検査を行う場合、**自費診療**となります。

高濃度乳房と言われたら・・・？

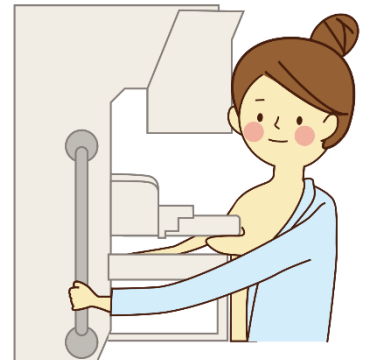
『高濃度乳房』であったとしても、追加で検査を受けるなどの**特別な対応をとる必要はありません**。
『高濃度乳房』であるか否かに関わらず、定期的に自己触診を行い、自身の乳房の変化を確認すること、検診の定期的な受診が大切です。
また、しこりや血性の乳頭分泌など、気になる症状がある場合には、放置せずに必ず医療機関を受診してください。



マンモグラフィ検査は必要ない・・・？

『高濃度乳房』の方は、【乳腺散在】【脂肪性】の方と比べると、しこりなどの病変や乳がんがあってもマンモグラフィ検査で発見されない可能性が高くなります。

ただし、しこりなどの病変や乳がんが**全く検出できないということではありません**。乳腺組織は年齢とともに減少し、乳房構成も変化するため、**定期的なマンモグラフィ検査の受診も必要**です。



次の検診時に受ける検査は・・・？

マンモグラフィ検査は石灰化の描出に優れ、超音波検査は腫瘍の描出に優れるという相補的な関係にあります。そのため、マンモグラフィ検査・超音波検査を同時に受診していただくのが最も精度が高くなりますのでおすすめです。

しかし、様々な事情で毎年同時に受診することが難しい場合もあるかと思えます。その場合、『高濃度乳房』の方は、**超音波検査を第一選択として毎年受診**していただき、**2年に1回以上のマンモグラフィ検査の受診**をおすすめします。

乳房構成はマンモグラフィ検査でのみ判断できますので、マンモグラフィ検査を受けた際、検査を担当している診療放射線技師にご自身の乳房構成をお尋ねください。

